

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成23年度第2回大学情報システム研究委員会議事記録

- I. 日 時：平成23年10月26日(木)午後2時～午後4時
- II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷
- III. 参加者：深澤委員長、鈴木委員、山崎委員、田胡委員、藤村委員、浜委員、西松委員、  
ネットマークス、日立製作所、富士通、伊藤忠テクノロジーソリューションズ  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 大学でのクラウドコンピューティング導入事例について
- ・ 賛助会員のレポートなどから、「経費削減モデル」「負担軽減モデル」「教育サービス向上」「災害対策モデル」に分けて、概要と効果を整理したものを例として検討を行った。
2. Webサービスとしてのクラウドについて委員の意見
- ・ 電力消費はサーバ台数を減らした分が良くなる。データセンタは集中しているので効率は良いと考える。電力量の把握は大学で取組がされている。
  - ・ 導入した後の費用は削減して見える。納入の検討に、CPU負荷のシミュレーションなどで新しいスペックに更新する場合の電力計算の予測は可能と思われる。
  - ・ 管理コストは、夜間や急な対応のロスコストが無くなると思われる。
  - ・ 設置スペースの問題や、管理の範囲で研究室で所有していたものなど、センターか学科か研究室レベルのどこまでを管理するのか共有できるのか課題になる場合がある。
3. 負担軽減としてのクラウドについて委員の意見
- ・ メールサービスが最も多い。授業環境では仮想化デスクトップでのメリットがあげられている。
  - ・ フルクラウド化は、安くはないと考える。メリットは、先のことを考えなくて良く、使いたいと思えば使えることで、サービス内容を考慮しなければ使えると考える。
  - ・ IT部門の位置づけは、故障対応がなくなり、本当にしなければならない業務で大学の経営に関連するものだけが残る。
  - ・ クラウドに乗せるサービスとしては、教育サポート・教務システムなどが必要。
  - ・ 一例として、大学として今後はサーバを購入しない方針。
  - ・ 一例として、クラウド化すると高くなるのでサーバ導入を検討している。
  - ・ 一例として、5年で10倍になる計画のケースでも、10万ユーザないと安くはならない。
  - ・ 管理を外部に委託するので、クラウド契約としては高くなるのではないか。共通のサービスクラウドならコストメリットがでるのではないか。共通化される範囲にないとメリットがでないと考ええる。
  - ・ 日本は受託開発、アメリカはパッケージオープン利用が中心と思われる。少ない特殊化には注意が必要。パッケージでは下がる可能性がある。
  - ・ 一例として、事務システムのクラウドを計画中、アプリはつくりこみでサーバ仮想

化、ブレードサーバでプライベート化。

- ・ 共通化できる部分としての例：ポートフォリオ
- ・ 図書館サービスは共通化されてきている。
- ・ 災害対応では、お知らせを出す、大学には置かないなど。

#### 4. 大学の情報システムでクラウド納入の評価視点について

- ・ クラウドを入れた情報システムについては、一部分をクラウド化する計画の限定利用。
- ・ データセンタの場所について、複数のデータセンタに分散する考えをいれてはどうか。
- ・ クラウドは経費の削減イメージがあるが、そうでもない現実があり公平な目で読み取れる資料とする必要があり、大学から見た資料として、こう見たらディスカウントで、こう見たら高いなどの見方がある。視点の条件づけで整理をしたい。
- ・ センターの役割が変わる、センターの機能がどうあるべきか。経費節減につながっていない現実など整理したい。
- ・ 経費削減モデルは事例をインタビューして、前提条件や使い方など確認をとりたい。

#### 5. 今後の予定

- ・ 次回はメールで日程を調整することにした。
- ・ **2/22** にアドバイザー賛助会員とクラウド勉強会として意見交流を実施し、大学事例や費用の試算を例に今後検討することにした。事例については2大学程度から直接情報を入手することを検討。教育クラウドの費用、イメージについてパブリッククラウドで運用する例として、大学が連携して  $4,000 \text{ 名/大学} \times 5 \text{ 大学} = 20,000 \text{ 名}$  程度の利用での金額算定をすることを検討。データ保全についてバックアップデータを外部データセンターで保管する場合の料金を算定。大学間の協定による相互補完例として、九州の大学と関東の大学が相互協定して、データを持ち合い、災害時などに相互にバックアップするような事例のイメージなどを例として今後検討することにした。